

情勢報告

更なる安定経営に向けて！青色申告会講演会



自分くの将来をどうしようか？

9月20日、JA土佐あき青色申告会連絡協議会は青色申告の特徴やナス栽培についてナス生産者を中心に16名で講演会を開催した。

税理士や農業会議からの資産譲渡や法人化に関する講演の後、振興センターから「土佐鷹」と「竜馬」の収益性比較、「炭酸ガス施用技術の経済性試算（案）」の説明を行った。参加者は将来を見据えた取り組みとして関心を持って聴いていた。

振興センターはこれからも、新技術や新品種の経済性評価などにより農家の安定経営の取り組みを支援する。

土佐鷹普及推進協議会総会及びナス振興にかかると講演会の開催！



最大のライバルから講演を聴く

9月25日、生産者代表、関係機関等約50名の参加を得て、土佐鷹普及推進協議会総会及び講演会を開催した。「27園芸年度に向け40haを目標に土佐鷹推進活動を行うこと」、「前年度販売単価底上げに効果があった予約的取引の拡大」など、販売戦略が提案された。

講演会では、最大の競合産地であるJA熊本市から講師を招き、品種統一や販売戦略等、ナス産地の振興策について興味深い紹介があった。

振興センターは、総会開催まで講師招への折衝や施策の提案等、コーディネーター役として活動した。

産地全体の技術力アップを目指して ～唐浜集出荷場研究会ナス部会～



芸西村篤農家の指導に「なるほど！」

9月30日、唐浜集出荷場研究会ナス部会は現地検討会を行い、生産者17名が参加した。同部会では24年度から、地区外である芸西村の篤農家に指導者として参加要請し、技術交流を図っている。今回は振興センターとともに樹づくり期の灌水・施肥を中心に巡回指導した。生産者からは積極的な質問や発言があり、活気ある会となった。

今後、振興センターではこの事例をもとに管内の地区間で連携した営農アドバイザー制度を確立し、栽培技術の高位平準化を進める。

今年も始動、H26園芸年度第1回女性ナス勉強会を開催！



園主の管理法を聞き入る参加者

9月30日、安芸集出荷場ナス部会の女性生産者8名が参加し、篤農家圃場での勉強会を開催した。振興センターは、18トンどりに向けた10月の栽培管理ポイント、樹勢把握のための生育調査法(案)や調査事例等を紹介した。園主や参加者同士で、この時期の灌水管理や整枝・誘引方法について熱心な意見交換が行われ、また、昨年度よりも頻繁な勉強会開催の要望が出された。

このため、振興センターは女性生産者向けに勉強会の開催回数を増やして対応する。

土佐あきをまるごと売りだそう ～JA土佐あき消費拡大連絡協議会が誕生～



JA土佐あき全体での取組に広がり、園芸品販売額向上に期待がかかる

10月4日にJA、生産者、市町村関係課、園芸連等30名でJA土佐あき消費拡大連絡協議会の設立総会を行った。

今まで安芸市だけで消費宣伝を行っていた安芸市園芸品等消費拡大委員会の活動だけでなく、関係機関の連携を強化して安芸地域全体で消費宣伝に取り組むことを目的に、振興センターやJAが関係機関と協議を重ね、新組織が設立した。

今後はJA土佐あきの施設野菜やユズを中心に、横浜や神戸など県外での消費宣伝活動や出前授業、県内では、もぎ取り体験、料理講習会開催など幅広く活動する。

大原・西ノ平営農組合ナス部会で勉強会が開催される



この虫は自分のハウスにいたぞ！

10月16日、大原・西ノ平営農組合のナス部会主催の勉強会に、振興センター担当者が講師として「ナスの害虫」について説明した。

生産者7名が出席し、自分のハウスで問題になっている害虫の生態と対策や管内で新たに問題となっている害虫の発生状況など、写真やスライドを見ながら活発な意見交換が行われた。

今後も、振興センターでは、営農組合の部会活動への情報提供を行いながら、集落営農ビジョンの達成に向けて支援していく。

ストップ立枯病！～芸西園芸研究会ピーマン部会～



「今が防除時期！」

10月18日、芸西ピーマン部会はピーマン立枯病対策の講演会を開催し、生産者23名（全28戸）が参加した。部会では昨年からの本病が発生し、一部農家で大幅な減収となった。

そこで、振興センターは部会と共催し、先進地である宮崎県から講師を招き、発生と防除対策について勉強した。生産者からは積極的に質問や意見があり、「止めるぞ」という気概が感じられた。

今後、振興センターでは講演内容を参考に具体的な防除指導に努める。

室戸市農業研究会、立ち木・育苗コンクールの受賞者発表！



表彰される受賞者

10月18日に室戸市農業研究会総会に31名が参加して開催され、77名を対象とした立ち木・育苗コンクールの審査結果が発表された。審査は振興センターを含むのべ28名の審査員による現地審査と10a収量を元に行われた。

6名の受賞者らは作物の良し悪しだけでなく圃場の整理整頓もできており、振興センターは圃場管理も評価され収量に繋がっていることを講評した。

振興センターでは、今後も立ち木・育苗コンクールの審査を通じて農家の圃場周辺も含めた整理整頓の意識向上を呼び掛けていく。

ユズのシーズン到来！ 消費者との交流会を開催 ～JA土佐あき～



ユズの収穫体験を楽しむ参加者

JA 土佐あきは、「早摘みゆず収穫祭」を10月20日に開催し、約4千人が来場した。これは、ユズの本格出荷を前にしたPRや、消費者との交流を目的に開催され、会場の安芸出荷場では、ユズ搾汁ラインの工場見学、手搾り体験、ユズ詰め放題等の交流イベントの他、ユズや地元食材を使った料理を販売した。振興センターは、ユズ収穫体験の支援を行い、ユズの特徴、料理の活用、保存方法等の情報提供を行った（参加者80名）。

今後も、振興センターでは、ユズ料理のコンクールイベント、消費地での試食宣伝等、販促活動や消費者との交流活動を支援する。

経営意向聞き取り調査始まる



将来ハウスはどのように・・・。

JA 土佐あきと振興センターでは、おおむね65歳以上の後継者がいないと思われる生産者35人に対し、産地の担い手の育成確保を目的に、営農や所有農地の意向を把握し、ハウスや土地の将来について聞き取り調査を10月21日から始めた。「体が弱って、来年いっぱいはやめたい」、「やめるならハウスを貸してほしいと言われている」など、切実な話が出た。

振興センターでは、関係機関と連携し今回の空きハウス等の調査内容を地域や部会へ情報提供し、担い手の育成・確保に向け支援する。